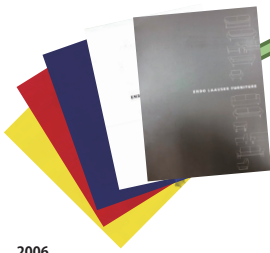


History of AbitaStyle



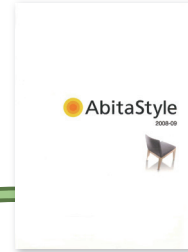
2006

株遠藤照明のインテリア家具事業がスタートしました。店舗販売から、コントラクトビジネスへの転換、トライでした。イタリアのボンテンピ社、テクノ社、ラウザー社、モンティナ社。それぞれにイメージカラーをセレクトし、収納できる特性の樹脂ファイルを製作し、ワンセットにて発売開始しました。



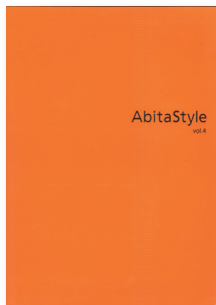
2007-2008 388ページ

オリジナル製品の開発、イタリアン以外からの輸入商品を加えて国内制作のシリーズも開発。大阪新本社、全館ショールームオープン等もあり、照明と家具の展示がスタート。東京のショールームは外苑前で運営していました。



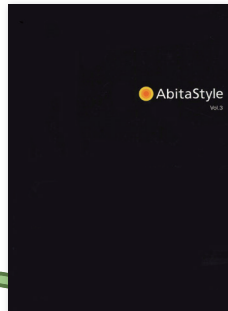
2008-2009 448ページ

表紙をホワイトに一新し、ビジュアルインデックスを掲載し、商品写真も少しコンパクトに見やすく変更。在庫管理及びデリバリー関係は、栃木県の佐野市と福岡県みやま市の2拠点。



2011-2012 352ページ

斬新なオレンジ、表裏の折り返しにビジュアルインデックスを掲載し、雑誌感覚的なレイアウトを完成させたのが良かったのでしょうか？第53回全国カタログ・ポスター展製品部門で金賞を受賞しました。カタログ発刊の時期を選らせた部分もあり、新製品も多く、また需要も伸びました。



2009-2010 312ページ

プレーンな黒ではなく、年輪のような筋(文様)をアレンジ。福岡県大川市の倉庫を購入し(約6,600平米)品質、在庫、配送関連を一括集約し、2拠点の分散ロスを改善。伊東豊雄、佐藤卓氏他3名で家具デザインを審査していただく、コンペも開催。プロ、ユース、グループの3部門で公募し、表彰記念パーティも開催しました。

2019-2020

総合カタログを一度に制作するのは、新製品も多く、スペック照合や、品質検査等にも相当な準備と費用と時間を要します。そこで改善した点が3つあります。
①分冊にすることでデータ管理を整理、分納していくことで、ミスの誘発を防ぐ。
②総合カタログに埋没してしまう商品にも、しっかりとクロスアップができる。
③大川倉庫内に撮影スタジオを設置したので、従来の搬入機持費用が無くなり、スタジオ費用もカット。また社内スタッフで撮影し、データ処理、画像調整もしているので大幅なコストダウンも実現できました。



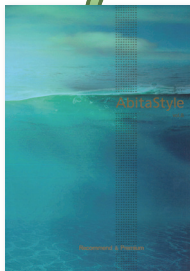
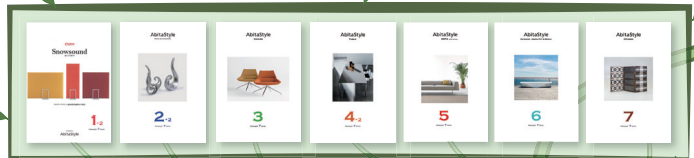
2012-2013

パーティションを特集したカタログの制作。ポリカーボネート等の新しい素材の融合や、レーザーカット技術によるシリーズも掲載しています。



2012-2013

テーブルだけに特化したカタログの制作。脚部のデザインを意識したシリーズが特徴的です。家具のグリッドエリアとして、テーブルが弱かったという面も考慮しています。



2014-2015 400ページ

表紙は、海底に光が反射し、浪打ちと水平面までを断裁したアングルに、清廉潔白であり、躍動感のある青にしました。このようなアングルは、ドローンでも無理で、神様しか見れないでしょう。イタリア製の吸音パネルも新発売し、全く新しい素材、先を見越した技術、微妙なカラーコーディネート、大胆なデザインが目玉されました。



2016-2017 320ページ

紫色のカタログは、企業、メーカーカタログ等で、今まであまり見たことが無いのでチャレンジしました。ラベンダー畑の向こう側に日が昇る、周囲にも沢山の芽が出てくる(業績が上がる)イメージで合成しています。ページ数は圧縮しましたが、商品点数は増加。検索しやすさも十分に訴求しています。